

2017年12月10日 週報巻頭言

世界バプテスト祈禱週間について

日本は1945年8月に第二次世界大戦を敗戦で終了しました。東京は焼け野原の状況でした。1947年、ドージャー宣教師の呼びかけに16教会が応じて、日本基督教団を離脱して日本バプテスト連盟を結成しました。日本の婦人部の数人が集まって「世界バプテスト祈禱週間」(目白ヶ丘教会の牧師館において)の祈禱会を行い小額ではありましたが献金しました。アメリカの南部バプテスト連盟はまさか日本から献金がくるとは思いもかけず驚きました。これからは日本も敗戦の痛手が大きかったが伝道に励まねばならないと考え、東京に伝道の拠点をすえなければならないと思い世界バプテスト祈禱週間で集められた一部を日本に捧げようと決定して送金されました。目白ヶ丘教会は最初は断りましたが、どうしても拠点を東京にということで献金を受け、今の場所の広さまで土地を購入することが出来ました。歴史は忘れられていくことと忘れてならないことがあります。

一教会の歴史ですが牧師として心にとどめておかなければならない大切なことです。

(山下誠也)